

「想像絵」

元々は大工が本職。

その頃から木彫士としても活躍。その芸名は「刀竜」。

終戦後、浜松町から新橋までの運河の親柱の彫刻を担当。

空爆で全焼してしまい、残っている作品は2～3か所がありますが、詳細は不明。

ご自身で作った「墨壺」は息子さんへ受け継がれています。

10年ほど前、脳梗塞を発症し、左手が思うように動かなくなりました。

本当にやりたいことは「彫刻」ですが、「頭のリハビリ」として絵を書き始めました。

絵は「想像絵」。目に見えているものではなく、頭に映像として浮かんでいるものを書きあげているのだそうです。絵を描いている時は熱中でき、体のことは忘れられる楽しいひと時。

ひな祭り

ひ孫の顔を見

恵比須顔

八王子市在住



笠井 清義(80)

平成23年3月～ 当院 訪問リハビリを開始しているご利用者様です。

とても活動的な方ですが、昨年の放射線治療から身体の動きづらさがあり、奥さんに手伝ってもらえることが増えてきています。

もともと自立心が高く、また何よりも奥さん想いの為、今の「手伝ってもらわなければならない」状況に対し、「早く死にたい」「生きていても仕方がない」とおっしゃる場面も増えてきています。

私たちは、まだまだ笠井さんから学びたいことがたくさんあります。

今回の出展を機に、さらに自信をつけ、体に無理のない範囲で、創作活動を続けて行って頂けたら…と思ってお誘いしました。

多摩丘陵病院 訪問リハビリ 理学療法士 永見 利紅